

環境バイオテクノロジー学会誌原稿執筆要領

1. 一般的事項

(1) テキストファイル形式または Microsoft Word 形式で保存できるワードプロセッサを用いて原稿を作成すること。

(2) タイトルページには、1) 論文題名、2) 著者名、3) 著者所属機関名、4) ランニングタイトル(簡略標題)、5) 投稿論文の連絡対応著者名及びその連絡先住所・電話番号・ファックス番号・E-mail アドレス、6) キーワード(5語以内)を明示すること。和文原稿の場合には、これらの英語訳を併記すること。

(3) 投稿論文は A4 版、1行40字、25行で作成すること。

(4) 略語リストがある場合は、本文第1ページに脚注として略語の項を設け表記すること。単位系と省略記号は SI 単位を基本とする。

(5) 生物の命名および記載は International Code of Nomenclature of Bacteria, International Code of Botanical Nomenclature, International Code of Zoological Nomenclature に従う。学名が初出の場合は省略をしないで記載すること。以後は属名の頭文字を略号とする。但し、紛らわしい学名が複数用いられる場合は、混乱を避けるために省略しないこと。

(6) 物質名の表記は、以下の規定に従って行うこと。① 有機化合物および放射性同位元素による標識化合物は IUPAC 規定¹⁾に従うこと。② 医薬品の商品名を使用する時は、頭文字を大文字とし、最初に出た時に括弧内に一般名または化学名を入れておくこと²⁾。③ 生化学関係の命名は IUPAB 制定の命名法に従う。酵素名は最初に出たとき、標準系統名と酵素番号(E.C.No.)を入れること³⁾。④ 生化学、酵素系で用いられ、IUPAC と IUB で承認されている略語は説明しないでそのまま用いてよい。また化学式に用いられる記号、略語などは Chemical Abstracts の用例に従うこと。

¹⁾ 平山健三, 平山和雄, 「有機化学・生化学命名法」, 南江堂(1988), 東京。

²⁾ 商品名か一般名か不明の時は最新版 The Merck Index を参照されたい。商品名は大文字で始まっている。日本の医薬品名で The Merck Index に出ていないものについては「常用新薬集」の最新版を参照。

³⁾ “Enzyme Nomenclature: Recommendations” (1984) Academic Press, New York.

2. 投稿論文の構成

(1) 原著論文は、1) 標題、2) アブストラクト、3) 本文、4) 引用文献、5) 図表およびその説明の順にまとめること。ただし、論説および技術論文にはアブストラクトを記載しない。

(2) 標題は、なるべく内容を具体的に表し、かつ簡潔なものであること。標題の下に著者名、所属機関名、所在地を書く。著者が複数で所属機関が異なる場合は、著者名末尾に上付数字を付けて区別すると共に、連絡対応著者名を指定すること。

(3) 原著論文のうち通常論文及び短論文のアブストラクトは英語によって記述するものとし、通常論文では 200 words 以内、短論文では 100 words 以内で作成すること。

(4) 通常論文の本文は原則として、緒言、材料及び方法、結果、考察(あるいは結果と考察)、謝辞で構成する。短論文では、これらの項目を区別せずに構成すること。

(5) 総説および研究資料の構成は、原著論文に準ずる。ただし、アブストラクトを省略できる。

(6) 文中での文献の引用は、引用文献の項目にアルファベット順に整理した文献番号を用いること。また、本文中で図および表を引用する際は、図および表の番号を的確に記すこと。

(7) 脚注はなるべく用いない方が望ましいが、必要な場合は該当事項の右肩に通し番号を付け当該ページの下部に説明を付けること。

3. 引用文献

(1) 引用文献は、下記の例に準じ、本文中の該当人名あるいは事項の右肩に 1), 1-3) のように番号を付し、本文末尾の引用文献の項に第一著書のファミリーネームのアルファベット順に 1., 2., 3. ... の番号を付し、一括記載する。Ibid., idem は用いないこと。私信、未発表の研究、学術雑誌に受理される前の論文、抄録が印刷されていない口頭発表などは引用文献には含めないこと。雑誌の略号は Chemical Abstracts Service Source Index (CASSI) 1907-1984 (Cumulative) 及びその補遺版により、雑誌名、書名、年、巻および頁の示し方は下記によること。

(2) 雑誌引用のとき

1) Lee, S-O., J. Kato, N. Takiguchi, A. Kuroda, T. Ikeda, A. Mitsutani, and H. Ohotake. 2000. Involvement

of an extracellular protease in algicidal activity of the marine bacterium *Pseudomonas* sp. strain A28. *Appl. Environ. Microbiol.* 66: 4334–4339.

2) 山肩健史, 黄介辰, 成田勝, 佐藤拓也, 塚清仁, 遠藤銀朗. 2000. *Bacillus megaterium* MB1 の TnMERI/1 から発見された新規有機水銀分解遺伝子 *merB3* の発現調節. *日本農芸化学会誌*. 74: 897–901.

(3) 書籍引用のとき

1) Hiraishi, A. 1989. Isoprenoid quinone profiles for identifying and classifying Microorganisms in the environment, pp. 663–668. In T. Hattori, Y. Ishida, Y. Maruyama, R. Y. Morita, and A. Uchida(ed.), *Recent advances in microbial ecology*. Japan Scientific Societies Press, Tokyo, Japan.

2) 中村和憲. 1991. 生物学的リン除去プロセスにおける細菌の役割と制御, pp. 31–46. *日本微生物生態学会編, 微生物の生態 17*. 学会出版センター.

4. 図と表およびその説明

(1) 図と表は印刷版下を作成すること。投稿原稿受理後、最終稿としてデータを入稿する際には、画質の劣化を防ぐため、Microsoft Word 等に貼り付けずオリジナルの図表作成に使用した別ファイルとして入稿すること。

(2) 原著論文の図と表は英文で作成すること。ただし、論説および技術論文については和文で作成してもかまわない。

(3) 表の標題は表の上を書く。表の内容説明文、表の注等は表の下を書く。表中の注の表示は※印等を用いず、a, b, c, ... (右肩つき, アンダーライン) を用いること。

(4) 図の標題および内容文は「図説明文」としてまとめて別紙とし、図の標題の最後にはピリオドを付すこと。内容説明は各標題の下に改行して作成すること。

(5) 写真はコントラストの強いものであることが望ましい。顕微鏡写真などのように拡大率を示す必要がある場合には尺度を写真に書き込むこととし、写真説明欄に何倍という拡大率を示すことは避ける。なお、本誌はPDF版と冊子体版を発行し、原則的に、PDF版はカラー、冊子体版はモノクロとする点に留意すること。

2001年11月27日公示
(2003年7月2日改正)
(2012年7月10日改正)
(2018年9月6日改正)